

書籍紹介欄百余篇執筆の経験から

諏訪 邦夫、立原 敬一、大塚 徹、石田 等

Experience of Writing comments to books more than 100

帝京短期大学ライフケア学科臨床工学専攻

Kunio SUWA, M.D., Keiichi TACHIHARA, Tohru OHTSUKA, M.B. Hitoshi ISHIDA, Ph.D.

Department of Clinical Engineering, Faculty of Life-care, Teikyo Junior College

Abstract

Personal experiences of introducing reading various books, explaining their contents published in one of small medical journals for nearly ten years were described.

Materials: Materials used are the author's manuscripts from October, 2005 to June, 2014. Approximately 30% of the books were fictions, while others were non-fictions. Eight of these were chosen from electronic media, mainly "Aozora-Bunko", which is the Japanese counter-part of Project Gutenberg, consisting mainly of classics in Japanese history of literatures under copy-right free conditions. Books in medicine were avoided intentionally. The categories are seven in linguistics including four in English, seven in musicology (mainly European classical music), six in sports science and culture, and nine in documentaries.

Selections tend to be made out of the commentaries in various news-papers, therefore so-called bestsellers tend to be chosen more often.

要旨

10年前から、某医学雑誌に「書籍紹介」の欄を受け持っている。分量はB5の雑誌1頁分で、紹介の内容はタイトルなどを別にして約2千字/回で、それが100回を越えた。そのデータを使用して、自分の読書傾向や書き方などを検討した。原稿は2005年10月から入稿しはじめ、現在までに160篇ほどの原稿が書けているが、すでに入稿した106篇を分析対象とした。

フィクションの割合: 全体のうち31件がフィクションで、うち新田次郎氏が2回(81,91)、松本清張氏が3回(2,57,74)、三浦しおん女史が2回で、結局全部で27名の著者が登場している。私は電子本を選ぶ頻度がやや多く、上記106篇中8篇がそれに該当する。

以下に内容分類を説明するが、この分類は必ずしも排反ではなく、同一の書籍が2通り以上に分類されるものもある。読者対象は医師なので、医学書は原則として避けるルールを課しているが、一般的な内容の医学書を含めている。

言語学への興味が深く、英語の問題を中心にしているいろいろと選択しており、それが7篇あり、うち日本語の歴史と将来を扱うものが3篇ある。音楽を扱うものが7篇あり、大半はいわゆる西洋のクラシック音楽関係だが、技術的なものもある。スポーツや運動領域のものが6篇ある。野球を中心とし、陸上競技や水泳も扱っている。

書籍を調達するソースが新聞や雑誌の書籍紹介欄のことが多く、ベストセラーを選ぶ傾向があり、約半数がベストセラーである。自分の好みの明確な領域としてドキュメンタリが9篇ある。

科学と文化一般のものが25篇あり、大抵は自然科学領域で、医学とも言えるものでこちらに分類した例もある。

序論

10年前から、某医学雑誌に「書籍紹介」の欄を受け持っています。B5の書籍1頁分なので、紹介の内容はタイトルなどを別にして2千字/回で、それが

100回を越えました。そこで、そのデータを基に、自分の読書傾向や書き方などを検討します。

基礎データ

原稿は2005年10月から入稿しはじめ、現在までに160篇ほどの原稿ができていますが、すでに入稿した106篇を対象にして分析しました。

フィクションの割合：31件、そのうち同一著者を複数回が3名で7回なので、計27名の著者を選んでいます。新田次郎氏が2回（81、91）、松本清張氏が3回（2、57、74）、三浦しおん女史が2回です。（37、83）

電子本の比率：私は電子本を選ぶ頻度がやや高いようで、上記106篇中8篇がそれに該当します。12、24、34、39、53、55、98、104

内容による分類

以下の分類は必ずしも排反ではなく、同一の書籍が2通り以上に分類されているものもあります。

医学書：読者対象は医師なので、医学書は原則として避けるルールを自らに課しています。しかし寄贈を受けたものや特に興味深く感じたものを例外として採用しました。4篇あります。：10、21、78、102

言語学書：言語学への興味が強いので、英語の問題などを中心にしていろいろ選択しており計7篇で、中に日本語の歴史などを扱うものが3篇あります。1、14、35、43、59、70、98

音楽関係のものが7篇あり、大半はいわゆる西洋のクラシック音楽関連ですが、技術的な内容のものもあります。：7、15、45、47、54、97、106

スポーツ・運動：6篇あり、野球を中心として陸上競技や水泳も扱います。37、67、68、92、101、103

ベストセラー：書籍を調達するソースが新聞や雑誌の書籍紹介欄のことが多いので、ベストセラーを選ぶ傾向があるのは避けられません。基準のとり方で異なるでしょうが、約半数は新聞の書籍紹介欄から採用しています。

ドキュメンタリ：自分の好みの明確な領域で、9篇あります。

11、16、23、26、67、71、73、85、86

科学と文化一般：25篇あります。大抵は自然科学領域のもので、医学とも言えるがこちらに分類したのもあります。

3、5、7、9、17？、19、20、29、53、56、58、61、63、65、69、70、75、76、82、84、87、88、89、90、100

電子本の例

私が「電子本」として分類しているのは、どなたも無料で入手できるので個々の作品を簡単に紹介します。ほぼすべて『青空文庫』所載でつまり著作権は切れています。50音順。

河口慧海著 チベット旅行記：1900年（明治33年）に、当時は鎖国状態だったチベットに潜入して2年弱を過ごした記録です。意図は仏教経典の学習。日本を1897年に出国し、最初の3年を主にインドで過ごして偵察とチベット語のマスターに努め、それからネパールに入って潜入を準備しました。書籍として有名なもので、数冊の大冊で敬遠していましたが、青空文庫でみつけて愛読しました。文章だけで1.1MBですが、美しい画像つきの版は1.6MBあってこちらが楽しい！

須川邦彦著 無人島に生きる十六人：タイトルの通りで、実話です。1898年に、帆船龍睡丸の乗組員16名が、ハワイの北にある小さな島（パール・アンド・ハーミーズ環礁：Pearl and Hermesの島）で数か月を過ごしました。その折りに、全員無事救助されて無事帰国するまでの経過を、船長が数年後に著者に話したもので。期間が半年と短く、全員が協力し合って快い読み物になっています。

太宰治著 津軽：私自身が2010年1月中旬に、地吹雪と津軽鉄道のストーブ列車を体験する目的でこの地を旅行したのをきっかけに読みました。私は太宰の愛読者ではありません。

津軽地方は太宰の故郷ですが、元来の行動範囲は限られて「全体を訪れたのは今回が初めて」と書いています。時期は1944年の春つまり敗戦の1年前で物資の乏しかった時代ですが、「貧しい」印象は受けません。著者は1909年生まれですから、この時35歳で一応作家として名声が確立しています。最初に、津軽半島の東側を、青森→蟹田→三厩→竜飛と進み、同じ道に戻って半島の西側にでます。津軽半島は地図で見ると小さいのに、東岸と西岸は画然と分離していて、当時は往来が不可能でした。

印象的なのが飲酒で、旅行中は毎日のように昼間から飲酒して常に二日酔状態で旅をしており、いかにも不健全で身体に悪い生活の印象を受け、それが作家太宰治を作ったと解釈するのでしょうか。電子版で読みながら、ちょっとだけ手を入れました。一つは、「ゐ」に違和感が強いのですべて「い」に変えました。もう一つは、文章の末尾の「のである」があまりに多いの

で100箇所以上も除去して、文章が滑らかに読みやすくなりました。

豊島与志雄著 天下一の馬：一応小説家とされていますが、元来は仏文学者で翻訳家としてご存知の方も多いでしょう。私も、『レ・ミゼラブル』と『ジャン・クリストフ』という2つの大長編をこの人の訳で読みました。本作品は童話で、黒馬を自慢にしている怠け者でお人よしの馬方甚兵衛が、ある時に怪我をした悪魔の子供に馬の腹を貸して住まわせてやったら……という楽しいお話。

夏目漱石著 夢十夜：漱石は落語が好きでしたが、そんな雰囲気であれば見事なショートショートで、全10話で33KBで一つ3.3KB平均、つまり原稿用紙4枚分です。

葉山嘉樹著 海に生きる人々：いわゆる「プロレタリア文学」の代表作とされるものの一つで、小林多喜二の『蟹工船』や徳永直の『太陽のない街』より私は気に入りました。室蘭から横浜へ石炭を運ぶ2千トンの貨物船が舞台で、登場人物は船長とその周囲の高級船員数人と、一般船員と臨時雇いの人たち、それに怪我で動けない船員が登場します。室蘭から横浜への一往復半、期間にして1月の物語で、最初の往路は荒れる航海とそれに関連した小事件の描写が中心で、いくつかの事柄が後の大きな問題の発生を示唆します。東京湾に入って横浜入港を前にして、船長が若手船員二人に舢（はしけ）を漕がせて上陸しますが、これは自分の欲望を満たすための違法行為で、この事件をきっかけに力の強い自由人的な船員がそのまま船を降り、そんなことをきっかけに事件が発生します。

柳田国男著 遠野物語：説明を要しない有名な作品で、岩波文庫などでも読めますが、青空文庫版は検索が自由です。文語文が欠点。

カッパ・雪女・経立（ふったち）では、カッパの内容が詳細で、カッパの子を産んだ話、川辺にうずくまっていた美女を嫁にしたら実はカッパで……など。経立（ふったち）は化身の意味で、女好みで里の婦人を盗み去ります。

カクラサマ・ゴンゲサマ・オクナイサマ・オシラサマは、神々が旅をして休息した場所、神楽舞に備える木彫きぼりの像、幸せをもたらす少年の神様、娘が馬と夫婦になって父親が馬を殺したら娘は馬に乗って天に昇った話など。

ザシキワラシ・天狗・山男山女・マヨイガ：よく知られた話ですが、マヨイガは山中にある不思議な豪邸

で、見つけたらただ逃げ帰らずにその家の什器か家畜を持って出ると縁起がいいとの言い伝えがある。

なお、藤村の『椰子の実』の詩は、柳田国男が伊良湖岬で椰子の実を拾って友人の藤村に話したことから生まれたもので、藤村自身は伊良湖岬を訪れておらず、椰子の実の生地の南国を思ったのは後の民俗学者柳田国男の感慨と解釈できます。

附：野口英司編著 インターネット 図書館 青空文庫はる書房、2005年、形式はDVD-ROM これは有料の商品です。「著作権を著者の死後70年に延長」との報道があり、もし成立すると「古い作家の作品を読むのが極端にむずかしくなる」として反対の意見が有力で、その意図で出たDVDです。

シュレージンガー著『生命とは何か』(Schrodinger What Is Life?)：ここから以下は青空文庫ではなくてインターネットで探して下さい。日本語版は岩波文庫ですが、英語版(原語:ただし著者はオーストリア人)は著者とタイトルから簡単に検索できます。内容は私には難物でした。

『トムラウシ山遭難事故調査報告書』(日本山岳ガイド協会作成、公開)(<http://www.jfmg.com/pdf/tomuraushiyamareport.pdf>):2009年7月16日、大雪山系のトムラウシ山を目指した登山者とガイド計18人のうちからガイド一人を含めて8人が死亡する大遭難事故が起きました。滑落や落石事故ではなく、低体温症による死亡です。その11年前の1998年に、私自身が知人に連れられてこのグループとほぼ同じコースを歩き、天気はよくて危険はなかったものの、最終日のヒサゴ沼→トムラウシ山→トムラウシ温泉は行程が長くて疲労困憊した記憶から、遭難が他人事ではない気持ちで読みました。

鈴木牧之著 北越雪譜：岩波文庫など複数の版がありますが、原文を電子化したものが入手可能です。
(<http://www.i-apple.jp/hokuetsu/1/>)

また、私自身が現代語訳して図も加えて公開もしています。

(http://book.geocities.jp/kunio__suwa/)

おわりに

自分が読んだ本を紹介する仕事を10年弱続けており、その一部を特に無料で公開されているものを中心に記しました。

この仕事をしてみて「読書したら、必ずメモをつけて簡単なコメントを加える習慣」が身について、その

点がありがたかったと痛感しています。

分析対象の作品の表：番号は掲載順。欠番は既述のもの

1. 山田雄一郎著 英語教育はなぜ間違っているのか ちくま新書
2. 松本清張著 ゼロの焦点 新潮文庫
3. 糸（くめ）和彦著 時間の分子生物学、講談社現代新書
4. 稲見一良著 セント・メリーのリボン 新潮文庫、東京、1998
5. 梅棹忠夫編著：日本文明 77 の鍵 文春新書、文芸春秋社、東京、2005
6. 川上健一著 翼はいつまでも 集英社文庫 集英社、東京 2004
7. 五十嵐滋 演奏を科学する 副題：人工知能が創る音楽 創らない音楽 ヤマハミュージックメディア、東京、2000。
8. 文芸春秋編 少年少女小説ベスト 100 文春文庫ビジュアル版
9. 小山慶太著：漱石とあたたかな科学 講談社学術文庫、1998
10. 竹中郁夫著 医療者のための医療紛争対処ハンドブック 日本医療情報センター
11. 井上 靖著 おろしや国酔夢譚 文春文庫 い 2-1 1974
13. 小谷野敦 恋愛の昭和史 文芸春秋、東京、2005 年
14. 大島正二著 漢字伝来 岩波新書、東京、2006
15. 茂木大輔 オーケストラ楽器別人間学 新潮文庫、2002
16. 天藤真著 大誘拐、創元推理文庫 840 円
17. 羽生善治・伊藤毅志・松原仁著 先を読む頭脳 新潮社、2006
18. 平岩弓枝 御宿かわせみ：シリーズ文春文庫など各種
19. 村松秀著 論文捏造 中公新書ラクレ
20. 西木正明著 養安先生、呼ばれ！ 恒文社、東京、2003
- 21-1. I ケイマン、アレグサンダー共著（館田武志・角倉弘行監訳、中西真雄美訳）幸せな出産のために、ランダムハウス講談社、東京（家庭医学ブックス）、2006
- 21-2 II 角倉弘行著 無痛分娩の基礎と臨床、真興交易医書出版部、2007 年
22. 加東大介 南の島に雪が降る 光文社知恵の森文庫
23. 乙武 洋匡著 五体不満足—完全版 講談社文庫 2001
25. 太田蘭三 遭難溪流 講談社文庫／1999
26. 岩尾龍太郎：江戸時代のロビンソン弦書房、福岡市、2006
27. 五人づれ著 五足の靴 岩波文庫、2006 年
28. 池澤夏樹著 世界文学を読みほどく 新潮選書 2005
29. 福岡伸一著 生物と無生物の間 講談社新書
- f 30. クローニン著（竹内 道之助訳）『城砦』、<クローニン全集 8 巻>三笠書房、東京、1976 年（Cronin, A. J. Citadel Orion Publishing Co Published 1996 Paperback 版、Penguin Readers Series. 1999 Paperback、
31. 薬師寺紀（伊地知紀子）著 子育ては楽し文芸社、東京、2008 年
32. 清水義範・西原理恵子著 独断流「読書」必勝法 講談社
33. ベンフィー著：大橋悦子訳 グレイト・ウェイヴ 日本とアメリカの求めたもの、小学館、東京、2008。（Benfey C. The Great Wave : Gilded Age Misfits, Japanese Eccentrics, and the Opening of Old Japan）
35. 鈴木 孝夫著 日本人はなぜ英語ができないか 岩波新書 1999.
36. Gawande A 著 Better : A Surgeon's Notes on Performance、Picador, NYC,NY, 2008. 最近、翻訳出版 ガワンデ 医師は最善を尽くしているか：医療現場の常識を変えた 11 のエピソード 原井宏明訳 みすず書房 2013
- f 37. 三浦しをん著 風が強く吹いている新潮社、2006
38. 山田五郎 知識ゼロからの西洋絵画 幻冬舎、東京、2008
40. 嵐山光三郎著 人妻魂 マガジンハウス 2007 年
41. 深沢秋男著 旗本夫人が見た江戸のたそがれ：井関隆子のエスプリ日記 文芸春秋新書、2007 年
42. ムーア解剖医ジョン・ハンターの数奇な生涯河出書房新社 2008（Moore, W. The Knife Man. The Extraordinary Life and Times of John Hunter. Father of Modern Surgery. Paperback）
43. 水村美苗著：『日本語が亡びるとき—英語の世紀の中で』東京、筑摩書房、2008.
44. 梓 林太郎著 知床・羅臼岳殺人慕情光文社文庫、1999、東京

45. 五木寛之著 ステッセルのピアノ 文春文庫、東京、1996
46. 村山由佳著 おいしいコーヒーのいれ方 (1) キスマでの距離、集英社文庫 1999
47. 川口マーン恵美著 証言・フルトヴェングラーかカラヤンか、新潮選書、東京、2009.
48. 日野啓三著 夢の島講談社文芸文庫、講談社、東京、1988
49. Cohen, G. D. The Mature Mind : The Positive Power of the Aging Brain. New York : Basic Books. 2006. 1800 円 (日本 Amazon から)
50. 有川浩著 阪急電車 幻冬舎、東京、2008 年
51. 浅野拓著、堀田あきお絵。まんが版 小倉百人一首東京、小学館、1996 年
52. 飯島夏樹著 天国で君に逢えたら 新潮文庫、東京、2007.
53. シュレーンジャー著 (岡小天、鎮目恭夫訳) 生命とは何か—物理的にみた生細胞 岩波文庫 2008 (原文の "What Is Life?" は、インターネットに無料で掲示)
54. 船山隆 マーラー (新潮文庫—カラー版作曲家の生涯) 新潮文庫 1987
56. 田中耕一著 生涯最高の失敗 朝日選書、東京、2003、
57. 松本清張著 小説日本芸譚 (新潮文庫) 2008
58. ジンマー著、矢野真干子訳 大腸菌～進化のカギを握るマイクロな生命体 NHK 出版、東京都、2009 年 (Zimmer C. Microcosm : E. Coli and the New Science of Life, Pantheon)
59. 古川昭夫・河手真理子著、酒井邦秀監修。今日から読みます 英語 100 万語!、日本実業出版社、東京、2003
60. 小林信彦著 うらなり 文春文庫版 2009 年
61. ドゥ・ヴァール著、柴田 裕之 訳。共感の時代へ—動物行動学が教えてくれること、紀伊國屋書店、東京、2010 (de Waal,F. The Age of Empathy, Harmony Books, New York. 2009.)
62. 日本ペンクラブ編、吉行淳之介選：純愛小説名作選 集英社文庫、東京、1979
63. サンドル著、鬼澤忍訳。これからの「正義」の話をしよう—いまを生き延びるための哲学 早川書房、東京 2010 (Sandel MJ. Justice: What's the Right Thing to Do? 2009
64. 岩崎夏海著 もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだらダイアモンド社、東京、2009.
65. 生化学若い研究者の会 (編さん)、石浦 章一 (監修) 光るクラゲがノーベル賞をとった理由—蛍光タンパク質 GFP の発見物語 日本評論社、東京、2009
66. 笹本稜平著 時の渚、文春文庫、2004 年
- 67-1) 羽根田治他 トムラウシ山遭難はなぜ起きたのか 低体温症と事故の教訓。山と溪谷、東京、2010
- 67-2) トムラウシ山遭難事故調査報告書 は既述。
68. ロスワイラー著 稲葉明雄訳：赤毛のサウスポー 集英社文庫 1979
69. 河田恵昭著 津波災害—減災社会を築く 岩波新書、東京、2010 年 12 月
70. 紀田 順一郎著 図鑑日本語の近代史—言語文化の光と影 ジャストシステム、徳島 1997
71. 鈴木牧之著 北越雪譜 岩波文庫他諸版あり。(諏訪邦夫の現代語訳は http://book.geocities.jp/kunio_suwa/)
72. 青木新門著 納棺夫日記 文春文庫 2011
- 73-1) アルボム著、別宮貞徳訳：モリー先生との火曜日 NHK 出版; 2004
- 73-2) Mitch Albom. Tuesdays with Morrie : An Old Man, a Young Man, and Life's Greatest Lesson, Broadway Books 2002. Amazon で 1,205 円 (他の版も)
74. 松本清張 点と線 新潮文庫 1971
- 75-1) RP Crease : The Prism and the Pendulum : The Ten Most Beautiful Experiments in Science. Random House, 2003. 1259 円
- 75-2) RP. クリース著、青木薫訳：世界でもっとも美しい 10 の科学実験 日経 BP 社 2006.
- 75-3) G Johnson : The Ten Most Beautiful Experiments. Vintage. 2009. 1315 円。
- 75-4) G. ジョンソン著、吉田三知世訳：もうひとつの世界でもっとも美しい 10 の科学実験 日経 BP 社 2009.
76. 池田清彦著 寿命はどこまで延ばせるか? PHP サイエンス・ワールド新書 PHP 出版、2009.
- 77-1) 杉田玄白著 蘭学事始 緒方富雄校注 岩波文庫 1959 年 540 円
- 77-2) 酒井シズ著 すらすら読める 蘭学事始 講談社 2004 古書 1500 円くらい
- 77-3) 長尾 剛著 話し言葉で読める「蘭学事始」、

- PHP 文庫、2004 古書 1500 円くらい
- 77-4) 菊池寛蘭学事始、書籍も数種類ある。青空文庫から無料でダウンロード可能
- 77-5) http://book.geocities.jp/kunio_suwa/ に現代語訳と原文。無料。
78. ドブソン著, 小林力訳: Disease 人類を襲った 30 の病魔 医学書院、東京、2010 年
(Dobson MJ. Disease: The Extraordinary Stories Behind History's Deadliest Killers. Quercus Books, Oxford 2008.)
79. 遠藤征広著 遅筆堂文庫物語—小さな町に大きな図書館と劇場ができるまで。日外アソシエーツ、東京、1998
80. 佐山和夫著 箱根駅伝に賭けた夢「消えたオリンピック走者」金栗四三がおこした奇跡 講談社 2011
81. 新田次郎著 アラスカ物語 (新潮文庫)、東京。2011
82. H S・フリードマン, L R・マーティン著, 桜田直美 (翻訳) 長寿と性格、清流出版、東京、2012。(Friedman HS, Martin LR. The Longevity Project Surprising Discoveries for Health and Long Life from the Landmark Eight-Decade Study. Hudson Street Press、2011
83. 三浦しをん 船を編む 光文社 1570 円 2011
84. Tu AT (杜 祖健) 著. ニュースになった毒 東京化学同人、東京。2012
86. 米長邦雄著 われ敗れたり 中央公論新社、東京。2012.
- 87-1. 石黒浩著「人」を創れるか —アンドロイドになった私 新潮社, 東京, 2011
- 87-2 石黒浩著 ロボットとは何か——人の心を映す鏡 講談社 現代新書、東京、2009
88. 山中伸弥著, 緑慎也著。山中伸弥先生に人生と iPS 細胞について聞いてみた、講談社、2012
89. 北川智子著 ハーバード白熱日本史教室 新潮新書 2012
90. 廣田弘毅著 麻酔をめぐるミステリー 化学同人、東京、2011
91. 新田次郎つぶやき岩のひみつ 新潮文庫、東京。2012
92. 高橋秀実著「弱くても勝てます」: 開成高校野球部のセオリー、新潮社、東京、2012
93. 岡田光世著 ニューヨークのとけない魔法 文春文庫 2012
94. 一志治夫著 幸福な食堂車: 九州新幹線のデザイナー 水戸岡鋭治の「気」と「志」、プレジデント社、東京、2012
95. 吉村龍一著 光る牙 講談社、東京、2013 年
97. 平野真敏著 幻の楽器 ヴィオラ アルタ物語 集英社新書 2012
98. 山崎貞著, 毛利可信訂 新自修英文典 (復刻) 研究社 2008
99. 灰谷健次郎著 鳥物語 I、II 角川文庫、東京、1995
100. 井ノ口馨著 記憶をコントロールする分子脳科学の挑戦 岩波書店 2013
101. スタルヒン著 ロシアから来たエース —300 勝投手 スタルヒンのもう一つの戦い PHP 文庫、1986.
102. Thorwald 著 小川道雄訳 外科医の悲劇: 崩れゆく帝王の日々 ヘルス出版 2013
103. シェール著 高月園子訳、なぜ人間は泳ぐのか 太田出版 東京、2013 (Sherr L; Swim: Why We Love the Water Paperback 1,628 円 (電子版も))
105. 山本紀夫著 梅棹忠夫「知の探検家の思想と生涯」中公新書、東京、2012
106. ベートーヴェン ピアノソナタ全集全 32 曲、多種あり、全曲で CD で 9 ~ 12 枚
例 グルダ盤、12 枚 (32 曲のソナタにピアノ協奏曲 5 曲も、価格 3578 円と廉価